

# 平成24年度事業計画書

(自平成24年8月1日～至平成25年3月31日)

公益財団法人双葉電子記念財団

# 平成24年度事業計画書

自 平成24年8月01日

至 平成25年3月31日

## I. 基本方針

我が国の経済活動は、昨年3月11日の東日本大震災による、復興基調の失速から、復興需要による一時的な景気回復はみられるものの、エネルギー問題、円高などによる製造業のアジア諸国への急速なシフト、タイの洪水被害による部品調達の遅れ等日本の家電、自動車産業等は大幅な赤字転落が発表され現在も一部を除き復活の道を模索している段階です。更に、昨年が続いての東関東の除染対策や産業復興、欧州の債務問題への対応、ロシア、台湾、ドイツ、フランス、中国、米国、韓国など主要各国の政権トップの交代と相まって、最近では日本の領土問題にまで発展し、日本の経済界への影響は予断を許しません。

当財団としてもこうした社会情勢や経済状況を踏まえ、公益法人に課せられた使命を再認識し、一層の効率的・効果的な事業運営に努めていくことが必要であると考えます。

特に、平成20年12月1日に新公益法人制度改革関連法の施行に伴い、当財団の大きな変革として、主務官庁を千葉県から国へ変更する方針を決議し、行政庁の指導のもと、新公益財団法人移行認定に向け、新定款の作成および移行準備を進めて参りました。その結果、本年2月15日に、移行認定の電子申請手続きを行い、本年7月24日に内閣府公益認定等委員会から移行認定書を頂き、8月1日付での移行登記が完了しました。

本年度は、中間の8月1日から、「(財)双葉電子記念財団」から「公益財団法人双葉電子記念財団」への移行となるため、6月の定例理事会・評議員会で議決された予算内で、当財団の過去の諸事業の実績を踏まえつつ、本年度の残りの事業計画の遂行と共に、次年度からの新たな事業展開を検討することといたします。

## II. 事業内容

### 1. 自然科学技術研究助成事業

これまでの研究助成の方針である「千葉県を中心とする」、という枠はなくなり、原則として日本国内の試験研究機関、大学等に財団ホームページや郵便を通じ、我が国の産業基盤に関係する埋もれた自然科学技術を発掘し助成を行います。さらに、本財団の事業方針を基に、今後の方向性を見据えつつ、過去に助成を受けた施設や、新たな大学・機関等を訪問し、当財団の設立趣旨を広く理解して申請して頂く活動なども検討を行います。

本年度は、移行期でもあり、従来予算に則った以下の通りの研究助成金枠での選考等を行います。選考は選考委員会による、書類および面接選考を経て選考され、当財団理事会で決定されます。

<平成25年度助成金額>

A区分：200万円以下/1件を約 5件

B区分：100万円以下/1件を約15件            AB計約20件

(なお、継続申請者は3年まで、累計で3回までとします。)

<千葉大学「なのはなコンペ2013」>

今年度は、移行期であることもあり、千葉大学関係の教職員は例年通り、当財団が主催する「自然科学研究助成」に応募せず、「なのはなコンペ2013」に応募することとします。千葉大学関係先と連携のもと、大学内での新技術・新産業の創出に繋がる萌芽段階のユニークな研究を募集し、自然科学分野の先端研究の支援を行います。

千葉大学内審査を経て選考された優秀な研究者には、審査会で選考後、当財団理事会で決定し、当財団から研究助成金の支給をおこないます。

<研究助成金贈呈式>

平成25年度の自然科学研究助成金（「なのはなコンペ2013」受賞者も含む）および奨学金支給候補者に対しては、平成25年7月5日（金）に、決定通知書の贈呈式を、千葉市美浜区のホテルスプリングス幕張において開催する予定です。また、併せて、平成24年度に助成金を受領された研究者の研究成果の一端をご発表いただきます。

なお、研究成果の内容については、当財団の年報等に掲載することにより、更に周知を図ります。

## 2. 奨学金給付事業

現状、原則として、千葉県内の大学の大学院博士後期課程に在籍、若しくは千葉県内に居住する大学院博士後期課程に在籍する大学院生を対象に募集を行います。平成25年度の募集に当たっては、特に、東日本大震災において被害に遭われた学徒に対しては、申請時に被災証明書を同時に提出して頂くことにより、若干名の震災被災者枠として、選考助成をさせていただきます。なお、前年と同様に海外からの留学生も対象とします。選考は選考委員会による、書類および面接選考を経て選考され、当財団理事会で決定されます。

<平成25年度対象者>

月額7万円 7名

## 3. 発明振興事業

次世代を担う青少年に、科学する楽しさ、創造する面白さを、体験・学習する場として、(一般社)千葉県発明協会が推進する「青少年創造性育成事業」

に協賛し、茂原市に設立された「茂原少年少女発明クラブ」や、県内の工業高等学校が行うロボット技術を競う大会、茂原市技術家庭教育部会の技術教育、活動事業等を支援しております。今後の予定としては、9月29日第6回高校生理学研究発表会参加、平成25年1月26日第13回自然科学実験イベント「おもしろ実験まつり」開催支援などがあります。

#### 4. 財団事務局内の整備

新公益財団法人移行に伴い、これまでの(財)双葉電子記念財団の資料の整理並びに過去の助成成果のデータベース化を進めると共に、そのデータを有効に生かせるようなデータシステムの構築、非常時のリスク回避を考慮したデータの危険分散、選考プロセスの電子化、事務所内のIT整備等を行います。また、全国対応の公益財団事務所として有益な活動が展開出来るよう、最適な情報収集活動の検討を行い、有効なシステム体制を構築致します。

以上